

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	花巻市立谷内小学校跡地活用方策の住民検討と地域づくり支援
対象地域	岩手県花巻市東和町 東和東部地区(5行政区:土沢第6、谷内第1~4)
活動概要	<p>■現状:小学校の廃校と集落再編による地域づくりの始動 花巻市では平成19年度から地域主権の理念に基づいた市民協働のまちづくりをすすめることを目標とした「小さな市役所」の制度がスタートし、市内を26地区に分け、それぞれの地区に市の出先機関として振興センターが設置された。振興センターには市の職員が2名ずつ配置されるとともに、各地区に住民の自治活動組織としてコミュニティ会議が設置され、特色あるまちづくりを住民と行政の協働により進めていく体制づくりが進んでいる。</p> <p>当該地区も5つの行政区を単位とする『東和東部地区』としてひとつの振興センターが設置され、コミュニティ会議が立ち上がるとともに、「東和東部地区地域づくり基本構想」の策定とそれに基づく地域づくりが平成19年度を初年度として進められつつある(参考資料Bを参照)。</p> <p>また、岩手県花巻市東和町(旧東和町)には、現在6校の小学校があるが、平成24年4月に1校に統合が予定されており、東和東部地区内の小学校であり、地域コミュニティの中心である谷内小学校も平成24年の3月を以って廃校となる予定である。</p> <p>■課題</p> <p>①小学校の廃校に伴う新しい地域コミュニティ拠点づくりの必要性 小学校は東和東部地区の中心に位置し、平成19年度は東和東部地区内の交流や活性化を目的として、初めて「コミュニティまつり」を実施するなど、再編集落の地域づくりの新たな拠点として位置づいている。また、小学校は地域住民にとっても自分たちの卒業校、子供たちが毎日通う学校として、地域コミュニティの重要な拠点ともなっている。</p> <p>廃校後の小学校の活用方法に対しては、住民からは産直センターやグリーン・ツーリズムの拠点、老人ホーム、住民が自由に集えるサロン、学童・保育施設、各種創作活動の拠点などとして生まれ変わらせたいといった意見が出されている。小学校廃校後、新たに地域コミュニティの拠点として生まれ代わり、幅広い世代の住民に今後も活用されていくことは、地域活性化の観点から重要な課題となっている。</p> <p>②少子高齢化と人口減少を見据えた再編集落による地域づくりの組織化の必要性 また、今後さらに進行する少子高齢化と人口減少を考えたとき、集落再編を見越してこの地域にとって5つの行政区が連携して必要な施設や機能等を住民自らが標榜し、創りあげていくことは、地域が今後も存続し、安心して生活を送っていくために必要な課題である。</p> <p>③「新たな公」としての地域づくり体制の構築による持続性と発展性の確保 この取り組みは、既存の住民自治組織と連携し、住民自らが主体的に活動し、市行政とも連携</p>
今年度の主な取組	<p>今年度は、平成24年4月の本格導入に向けた取り組みの初年度として、住民とNPO、市が参加したプロジェクトチームの立ち上げとワークショップの開催、今後の活動方針を見極めるための現状の把握や先進地視察等各種調査を実施する予定である(活動①~⑥)。</p> <p>次年度以降は、今年度の成果を踏まえて、実践チームを立ち上げ、実践活動や社会実験等を行い、平成24年4月の本格稼働に向けた活動を進めていく予定である。</p> <p>活動①プロジェクトチームの立ち上げとワークショップの開催 小学校跡地利用について検討するプロジェクトチームを住民、NPO、市をメンバーとして立ち上げ、ワークショップを7月から6回程度開催する。ワークショップのテーマ案としては、①集落点検、集落ヒアリング、②地域の現状マップの作成、③ゆめ語り、④地域の将来マップの作成、⑤視察、⑥次年度以降の活動についてとする。</p> <p>活動②地域概況の資料収集整理 人口や世帯の分布や年齢構成等東和東部地区の現状を把握し、共通認識を得るための資料を収集し、整理する。資料はワークショップ資料として活用する。また、ワークショップを進めるに当たって必要となる資料等についても随時収集とりまとめを行っていく。</p> <p>活動③人口推計分析 小学校跡地の活用を検討するためには、これから東和東部地区がどのような姿になっているかを踏まえての検討が重要となる。そのため10年や20年後の地区の姿を思い描くための基礎的な資料として、年齢構成別人口の数値を元に、将来の人口構造の分析を行い、ワークショップ等の資料とする。</p> <p>活動④地域の現状調査、集落点検 プロジェクトチームとして集落点検やヒアリング調査等を実施し、地域の現状や地域の課題、地域が必要としていることなどを把握する調査を実施する。</p> <p>活動⑤先進事例視察 小学校の跡地活用について先進的に取り組み成果が出ている地域を選定し、視察を行う。</p> <p>活動⑥今後の活動方針のとりまとめ 今年度の活動成果とともに、次年度以降の活動方針を検討し、とりまとめる。</p>

活動結果	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の跡地活用を検討するための組織として、“谷内小学校の跡地を考える委員会”を、既存の住民自治組織とは別に組織した。 ・小学校の跡地活用を目標として、東和東部地区の課題について様々な意見交換が行われ、少子化による子供の遊び場の減少や仲間づくり、高齢化によるお年寄りが楽しく過ごせる場所づくり、嫁不足などの課題の共有化が図られ、地域として解決していこうという意識がつくられてきた。 ・プロジェクトチームによるワークショップにおいて、地域の課題を整理した上で地域に必要な施設や機能を検討し、さらに谷内小学校跡地の活用方策について考えた結果、複数の活用方法のアイデアが出された。その結果を住民アンケートという形で地域に在住する住民全員に問いかけを行い、小学校跡地の活用案が整理できた。 ・小学校閉校後の校舎の取り扱いについて、ワークショップに市当局も参加してもらって意見交換を行い、今年度の成果として市に対する要望・提案書を取りまとめることとなった。今後も、市との協議を重ねながら、“考える委員会”を中心に小学校跡地の活用について検討していくことが決まっている。
当初予想していなかった効果	<p>当初、従来から自治組織に参加する住民ではなく、これからの地域づくりを担う若手や女性の参加を進めるためにも新たなチームを作ることには想定していたが、そのチームをコミュニティ会議の中に位置づけ、設置要綱までつくることは想定していなかった。真剣に地域としてこの問題に取り組んでいこうとする意欲が感じられたと共に、委員の参加意欲にもつながった。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【写真:左】ワークショップでの班別の検討状況 【写真:左・右】ワークショップでの班作業後の発表状況</p>
応募団体名	特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター
リンク	http://www.k5.dion.ne.jp/~iwasen/ http://www.city.hanamaki.iwate.jp/citizen/c-taninai/
部局／担当者名	同法人 常務理事 若菜 千穂
連絡先	TEL:0198-44-2411 E-mailアドレス:iwasen@w9.dion.ne.jp
推薦市町村名	花巻市